

導入へ契約・制度面整備

3段階で16年度めど

国土交通省は、CIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）導入のスケジュールや検討項目を示したロードマップのたたき台をまとめた。普及に向け、2012～14年度を試行期間、13～15年度を試行拡大期間、14～16年度を導入期間の3段階に設定。工区割りの自動算出技術や3次元モデル作成ツールといった技術開発による活用拡大や、最適な契約方式の検討など制度面での体制整備を進める方針を示した。今後、業界団体などと意見交換した上で、10月にもロードマップを確定させる。あわせて、各地方整備局から1件程度をモデル事業を選定する。＝関連2面

国土交通省 10月にロードマップ

たたき台は、導入の方向性を検討するために設置し、10日に初会合を開いた「CIM制度検討会」で提示した。16年度までの試行、試行拡大、導入の各期間で、測量・地質調査、設計、積算、施工、維持管理の各段階で求めるレベルや、次の期間への移行に向けて必要な技術開発、導入についての制度面や基準面に関する検討項目などを示した。

試行期間では、既存技術に基本的な属性情報を加えて構築できるCIMモデルを活用していく。測量・地質調査や構造計算、積算では従来と同様の方法とし、並行して地形・地質データのデジタル化や3次元設計・計算ソフトの開発を進める。現在、実施できない工事数量の自動算出技術も検討する。

試行拡大期間は、数量自動算出技術などの開発による活用範囲の拡大を目指す。測量・地質調査でのデジタルデータの全面導入や、一部の工程でCIMモデルからの自動積算、施工中のCIMによる現場管理や安全管理などを実施するほか、維持管理段階でのCIMモデルの活用に向けたデータ集計ツールの開発や維持管理に活用できる施工時データ・完成時データの納品を検討する。

導入期間では、デジタル地形データや3次元設計・計算ソフト、属性情報の一般化・高度化を進め、CIMモデルからの自動積算の拡大、施工の最適化への活用などを始める。

制度や基準面の検討は、試行拡大期間までに設計段階でのCIMのレベルをまとめて運用に入るほか、工事段階で

のレベルも13年度以降に検討を始める。契約制度では、設計から施工の移行段階で手戻りを減らすため、詳細設計と施工の一括発注も一部の工程

で検討し、CIMモデルを契約図書として扱えるか検討する。

調査業務に関しても、導入により概略設計から予備設計を経て詳細設計をまとめる現在のフローの中で省略できる業務が出てくるとみている。

このため、試行期間中に課題を整理した上でフローの見直しを検討する。

先導モデル事業の2種類で実施する。下期から設計業務で始め、可能な範囲で工事も対象とする。各整備局から試行できる業務を1件程度挙げてもらい、国土交通省で10件前後を選定する見通し。このうち2件程度を先導モデルとし、残りを一般モデルとする。

選定する事業は、継続して工事が実施できる業務とするほか、土工や構造物、舗装など複数の工種を含んだものとする予定。現在着手している業務から選定し、内容を変更して対応する可能性もある。

建設通信新聞

【建設ICT】

- | | | | |
|----------|--------|--------|-------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 4. 日経 |
| 4. 読経 | 5. 岐静 | 6. 中伊 | 5. 日勢 |
| 7. 産経 | 8. 建通 | 9. 日日 | 6. 刊工 |
| 10. 中部経 | 11. 建通 | 12. 日日 | 7. 本海 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃 | 15. 日日 | |
| 16. 建設工 | | | |

平成24年 8月16日 (朝)・夕) P /